

それでは次に、小中学生の暑さ対策について質問させていただきます。

今年もとても暑い夏でした。何なら、この最近まで半袖で軽装だったような気がします。

近年、地球温暖化は急速に進み、特に夏場の高温は命の危険さえも感じるほどです。今回のこの質問は、私の孫目線での質問、要望をお願いしたいと思います。

前回の質問では、小学生の登下校時の荷物の多さ、その軽減について質問、提言をさせていただきましたが、今回はこの荷物の軽減も少し解決できるかなという点も含む提案でございます。

夏場の暑さ対策として、小中学校の児童生徒たちは、水分の補給として、水筒などを持参することは必須であります。大きな荷物、また、大容量の水筒を抱えていく姿は頼もしい姿であります。重たそうだなとつくづく思います。特に真夏に持っていつている水筒は、成人の私の水筒より大きいのではと見てとれます。成人であれば、自動販売機やコンビニに行けばすぐに水分を購入でき、冷たいお茶や水を購入できますが、学生はそうはいきません。学年が進むにつれ、体も大きくなり、必要とする水分量も多くなることは自然であり、水筒の飲み水を多く持っていかないと、1日は過ごせません。

私たちが子供の頃は、水筒を持っていくということはしていませんでしたし、学校にはウォータークーラーがあり、休み時間にはウォータークーラーで水分を取り、また、部活動では、粉のスポーツドリンクをウォータークーラーの冷水で溶き、部活動をしていました。古い時代のことを言うと今の若者たちには嫌われますが、この議場にいらっしゃる方々は共感できるものと思ひ、述べさせていただきました。

現状、私が知る学校には、ウォータークーラーはなく、全国的に見ても、コロナ禍により、直接口飲みするウォータークーラーはほぼ撤去されたようです。

ですが、それに代わり、最近開催された大阪・関西万博で注目を浴びました給水スタンドが、全国の民間の施設でも導入されているのは、皆さん御覧になられたことがあると思います。御家庭に導入されているウォーターサーバーとは違い、直接水道水に接続され、維持経費も抑えられ、メンテナンス料も格段に違い、導入費用も抑えられている給水スタンドは、今、小中学校の児童生徒たちへの熱中症対策の一番大事である水分補給の施策として、様々な自治体が導入していることを聞いています。

先進地の事例を紹介させていただきますと、東京都新宿区では、事業の目的として、学校行事等の実施に当たって、熱中症対策の充実が求められている。そのため、各学校に給水スタンドを設置することにより、児童生徒の健康を保持し、安全かつ安心して学校生活を送ることができるように教育環境の向上を図ります。このように述べ、区立小学校29校に90台、区立中学校10校に30台、特別支援学校1校に1台、水道水を原水とした浄水を補給でき、水の購入は不要。また、熱中症対策として、冷水の補給も可能な機器を設置。年2回フィルター交換と本体清掃等のメンテナンスは必要であり、在籍児童

生徒数、学校要望等に応じ、各学校に1台から4台を設置。目安として、在籍数200人以下は2台、201人以上は3台、401人以上は4台、特別支援学校には1台を設置することです。

最近の異常な高温への児童生徒を守る対策として、エアコン導入と水分補給は最前線で行うべき施策であると思いますが、教育委員会としての給水スポット導入の考え方をお聞かせください。

それともう一つ、通学時における熱中症対策として、小中学生の日傘の使用についてお尋ねします。

先ほども申し上げましたが、最近朝から高温になり、通学時の熱中症対策は必須であると思います。ここ数年で日傘が夏の必需品になり、新居浜では車移動が多いですが、都会では徒歩移動が多いので、日傘を差す方が多く見られます。かくいう私も、去年から日傘を差すことが多く、直射日光対策、熱中症対策への日傘使用はすばらしく、恩恵があると感じています。

全国的に見ても、熱中症対策として、日傘を児童生徒たちに持たせ、活用している自治体もあります。自治体による配布事例として、夏の厳しい暑さで知られる埼玉県熊谷市は、市内に住む小学生約9,000人に対し、遮光性の高い晴雨兼用の傘を配布。熱中症対策として、市が独自に開発した傘で、長さは55センチメートル、遮光率99%以上、遠くからでも目立つ黄色にオリジナルのロゴを入れ、全市立小の在校生に学校を通じて渡すほか、市外の学校などに通う児童に対しては、市役所の窓口などで配布を行っています。

確かに熊谷市は、全国的にも気温が高温で有名ですが、ほかにも福岡県筑後市、兵庫県稲美町なども全児童を対象に日傘を配布し、通学時の熱中症対策、暑さ対策を行っています。

我が新居浜市も通学時、聞きますと、校区によっては通学時間が約1時間かかるような学校もあり、朝夕の通学時の暑さは小学生、特に低学年には大変であるのは想像がつきます。

来年も再来年も、今後、夏場の気温は下がるはずもなく、子供たちの命を守る方策として、新居浜市でも小中学生への日傘配布ということを行ってみてはと思います。教育委員会の考え方をお聞かせください。

○副議長（篠原茂） 答弁を求めます。竹林教育委員会事務局長。

○教育委員会事務局長（竹林栄一）

（登壇）小中学生の暑さ対策についてお答えいたします。

まず、給水スタンドの導入についてでございます。

給水スタンドを導入することは、水分補給手段だけでなく、循環型社会への取組としても有効であると認識しております。一方で、多くの児童生徒が利用することが見込まれますことから、定期的な清掃や水質管理、消耗品の交換や故障時の対応など、衛生管理や安全面での対応が必要となってまいります。

現状では、児童生徒の健康と安全を守るため、水筒の中身がなくなった場合に備え、職員室や保健室にペットボトルの水やお茶を用意するなどの対策を実施しております。

今後におきましても、児童生徒の熱中症対策として、給水スタンドを含め、効果的な水分補給の方法について、他市の事例を参考にしながら

調査研究を行ってまいります。

次に、小中学生への日傘配布についてでございます。

日傘は持ち歩ける日陰を作り出し、体感温度を下げる効果が期待でき、地面からの照り返し熱をカットする効果もあって、登下校時の熱中症対策として有効であり、使用を許可しております。一方で、傘を持ち歩くことに不慣れである児童もあり、小中学生に日傘を配布し、一律に使用するのではなく、登下校時にぬらして首に巻くタオルやネッククーラーなどの冷感グッズと同様に、日傘の使用につきましても、保護者の判断に委ねたいと考えております。

なお、登下校時の熱中症対策として、帽子や日傘等により日差しを遮ること、通気性、透湿性の悪い服装を避けることなど、保護者に対しましても情報提供を行い、必要な連携を図ってまいります。

○副議長（篠原茂） 伊藤謙司議員。

○22番（伊藤謙司）（登壇）先ほど私がお話したんですが、もともと学校には、ウォータクーラーがありましたよね。あれも結構手間もかかったと思うんですけども、今の時点で、給水スポットというのが、ちょっとできにくいよというか、設備面でも経費もかかるしというお話なんですが、ウォータクーラーがあったんだったら、給水スポットはできると思うんですよ。この辺をもうちょっとラフに考えていただいたほうがいいと思うんですけど、ちなみにウォータクーラーというのはいつぐらいからなくなったというのは、お話しできますかね。ちょっと難しいですか。なら大丈夫です。

なので、ちょっと一つお尋ねしたいのが、今年も暑かったんですけど、多分熱中症になった生徒さんは、かなりいらっしやったと思うんですよ。ちなみに市内で今年、熱中症になった児童の数というのは、把握はされていますか。

○副議長（篠原茂） 答弁を求めます。竹林教育委員会事務局長。

○教育委員会事務局長（竹林栄一）（登壇）伊藤謙司議員さんの御質問にお答えいたします。

熱中症になった児童生徒の数でございますけれども、令和7年の4月から10月までの間、学校管理下において、熱中症と診断された小学生が2人、中学生が12人でございます。昨年度から比べますと、大幅に減少しております。やはり熱中症に対する啓発ですとか、学校での声かけとか、そういったものの取組の成果はあるんじゃないかというふうに考えております。

○副議長（篠原茂） 伊藤謙司議員。

○22番（伊藤謙司）（登壇）例年より少なくなっているというお話なんですけども、小学生はあれなんですけど、中学生は結構無理をするので、熱中症というのは、基本的には水分が足らなくて熱中症になると思います。給水スポットなり、水が取れるような設備は作ってあげてください。多分減ると思いますので。

それと日傘なんですけど、調べますと行政によっては、日傘は差したら駄目ですよというような市もあるそうです。先ほど来お話があった、危ないからというようになるんですけども、新居浜市としては、日傘は差してもオーケーなのかどうか、先に

そこだけ確認をさせていただきます。

○副議長（篠原茂） 答弁を求めます。竹林教育委員会事務局長。

○教育委員会事務局長（竹林栄一）
（登壇） 伊藤議員さんの御質問にお答えいたします。

日傘の使用についてですけれども、先ほど申し上げましたように、日傘は熱中症に対する効果がありますので、そちらの使用については、教育委員会のほうで認めております。

○副議長（篠原茂） 伊藤謙司議員。

○22番（伊藤謙司）（登壇） 小学生がいきなり日傘を差して登下校をすると、いじめられたりとかもすると思うんですよ。なので、まず、保護者とか児童生徒たちに、教育委員会として日傘を奨励するという形で後押ししていただかないと、高校生なんかは差すんですけども、新居浜の小中学生はなかなか差しにくいと思うので、最初に背中を押してやるような形で、みんなと一緒に差してくださいねというような発案というのは、教育委員会のほうからできないですか。

○副議長（篠原茂） 答弁を求めます。竹林教育委員会事務局長。

○教育委員会事務局長（竹林栄一）
（登壇） 御質問にお答えいたします。

日傘の奨励についてでございますけれども、先ほど申し上げましたように、日傘ですとか帽子を着用して直射日光を遮るというようなことは有効でありますので、ほかにもいろいろな熱中症対策の方法もございますことから、その中の一つとして、お話のほうは保護者の方にもさせていただきたいというふうに思っております。

○副議長（篠原茂） 伊藤謙司議員。

○22番（伊藤謙司）（登壇） 何か日傘、日傘と申し訳ないんですが、私は本当に去年ぐらいから日傘を差して、視察なんかと一緒にいかせていただいたとき、市長は日傘は差していますか。ぜひ差してみてください。かなり違います。かなりというか、もう本当に違いますので、これは絶対にいいと思いますので、教育長も日傘を差してください。ぜひやっていたら分かると思いますので。だけど、本当に文書でも結構なので、少し推奨していただくと、子供らも差しやすいのかなと思いますので、よろしくお願いします。